



雪景色の清水寺境内。右は鐘楼、中央奥は仁王門（2025年1月10日）

清水 第二三三号 目次

表紙題字・良慶和上筆 表紙写真・慈恩会（2024年11月13日、清水寺経堂）

対談 「今年の漢字30年 書と漢字の未来」

……清水寺貫主 森 清範×日本漢字能力検定協会理事 山崎信夫 …… 2

五明洞浄墨 吉阪敬信筆「歳朝恭賦七絶詩」 …… 11

大西良慶和上法話「般若心経講話」⑤ …… 12

清水寺 長臈語り ④ …… 清水寺長臈 森 孝忍 …… 21

『四十手深要決義』を読む 第30回 …… 清水寺執事 森 清顕 …… 29

清水寺学峯がはじまります …… 清水寺執事 森 清顕 …… 37

中国で考えたこと …… 清水寺執事 大西晶允 …… 42

法然上人御尊像7年ぶりに開扉 …… 51

世界遺産30周年で随求堂本尊御開帳 …… 55

「伝・勢室、観音菩薩立像」、金沢文庫「運慶展」に清水寺学芸員 内田 孝 …… 59

「清水寺・古写真館」見事な松林に子安塔が見え隠れ …… 65

『成就院日記』翻刻・刊行にあたって③⑥ 清水寺史編纂委員 酒匂由紀子 …… 66

福島県・慈心院に森貫主参拝 …… 81

「夢」、森貫主が揮毫 福島県大熊町 …… 83

アテルイ、モレ頭彰碑30周年 …… 85

清水寺の映像ブルーレイ版 …… 88

備品寄贈、開晴小中学校から感謝状 …… 89

津軽音羽会が餅米奉納 …… 91

ヒラリー氏、菊池投手ら米国から来山 …… 92

東山の国有林で環境保全 …… 94

朝講座、今年は「古典と清水寺」 …… 96

ゆっくり亭、納経所建て直し …… 97

重文の絵馬「繫馬図」修復始まる …… 99

清水寺上空にドローン350機 …… 100

内外往来

編集後記

…… 102

「今年の漢字」が30年を迎えて対談する森清範貫主と山崎信夫理事長



対談「今年の漢字」30年 漢字と書の未来

清水寺 森貫主 漢検・山崎理事長

清水寺で発表され、一年を振り返る師走の風物詩としてすっかり定着した「今年の漢字」。森清範貫主が十二月十二日に京都市内を借景とする奥の院舞台に立ち、全国から最も応募の多かった一字を揮毫します。揮毫の場面はテレビの生中継でも報じられ、予想や発表結果への批評も盛んです。時の首相をはじめ、各界の著名人が「私の一字」を発表するなど、「今年の漢字」は、年末回顧の象徴となりました。

「今年の漢字」が二〇二四年に三十回を迎えたのを機に、第一回から筆を振るう森貫主と、主催者・日本漢字能力検定協会の山崎信夫理事長が三十年を振り返り、書と漢字の可能性・未来を語り合いました。(口絵参照)

(司会、構成・清水寺学芸員 内田孝)

―「今年の漢字」開始のきっかけをお話ください。

理事長 漢検では、小学校一年生修了程度から一般・大人向けまで多様な段階の試験を準備し、「漢字能力検定」を実施しています。みなさまに漢字について深く理解していただき、さらに「漢検」に挑戦する気持ちを醸成していきたい―と考えたことから、企画「今年の漢字」が発案されました。その一年を象徴する漢字一字を決めるにあたっては、識者が検討するのではなく一般公募とし、決まった漢字が広く世の中にインパクトを与える発表方法を探りました。

まさに「清水の舞台から飛び落ちる」気持ちで、広報担当者（現参与・大野博史氏）が、清水寺の大西眞興執事長（現・長嶋）をお訪ねしました。提案に「おもしろいやないか」と二つ返事で快諾いただき、歯車が動き始めました。と言っても、国宝の本堂舞台をお借りし、立って揮毫するスタイルで果たしてほんとうに実施できるのか、と考えたものです。

（注・揮毫は重文・奥の院の舞台で行っています）

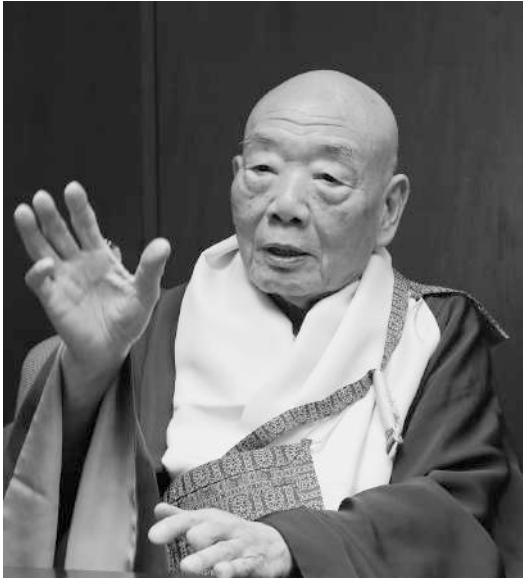
貫主 漢検は漢字の普及に努めておられる団体で、

私たちもみなさまと同じく、漢字の世界で生きています。ご提案を伺った眞興執事長と話をしてみても、「今年の漢字」が、漢字の普及や日本文化の伝承に大きくつながっていく企画であることを理解しました。

それまでは書を頼まれた際などに、立って筆を執ることがありませんでした。野外で風景画を描く時のように、和紙を立てて筆で字を書いてみると、墨が下に垂れてしまうことが気になりました。しかし「墨が垂れたり、流れることもひとつの景色やな。これはこれで臨場感が出るなあ」と考えなおしました。

さて実際に企画が始まってみると、当初は道具類も何を使うかなど試行錯誤でしたね。現在よりもっと細い筆を使っていたところ、テレビで中継放送をご覧になった古梅園（京都市中京区）の知人から「あの大きな紙（縦一五〇センチ×横一三〇センチ）に大きく一字を書くには、使っている筆が細おっせ」とご指摘いただき、大野さんに探してもらいました。和歌山カレー事件、猛毒ダイオキシンが報じられて「毒」

「それまで立って筆を執ったことがなく、できるのかなと思った」と振り返る森清範貫主



が選ばれた四年目の一九九八年から、今の大きさの筆に落ち着いたのです（注・軸の長さ二六センチ、筆先の長さ一一・五センチ。署名用の細筆は軸一八センチ、筆先四・五センチ。毎回、新しい筆を漢検に提供いただき、一年間使用しています）。

ふだんは、広島・熊野町の伝統工芸品で牛の耳の毛で作った筆を使っています。「今年の漢字」用も

同じ熊野筆で、とても書きやすいですね。

理事長 「弘法筆を選ばず」と申すように、貫主

から筆についてあれこれ注文を伺ったことがありません。当方で工夫し、牛耳に白馬の尾（白天尾）をミックスした牛耳兼毫筆です。筆を調達する現場職員にとっても準備を進めやすく、ありがたいことです。

和紙は越前産を経て、京都府にもご相談して八百年以上の歴史を持つ黒谷和紙協同組合（京都府綾部市）にご協力をいただき、組合から職人さんが紙漉きの授業の指導に向いている京都伝統工芸大学校（京都府南丹市園部町）に、国内ではめったにない大きなサイズの手漉きができる設備を備えていただきました。改元で元号が令和にあらたまって「令」が選ばれた二〇一九年から、今の和紙になったのです。

貫主 紙もいい、筆もいい、墨もいい（笑）。すべてそろっています。越前和紙も書きやすいよい紙でしたが、京都産にそろえたのでしたね。京都伝統工芸大学校には、東日本大震災で被災した岩手県陸前高田市の名勝「高田松原」の流木松を用い参道にある塔中・真福寺大日堂の御本尊・大日如来坐像を制

「『清水の舞台から』のように、思いきって清水寺に企画を持っていった」と話す山崎信夫理事長



作いただくなど、さまざまなご縁をいただいております。完成した大日如来坐像は岩手県各地を巡回し、現在は真福寺大日堂の御本尊となりました。思い起こせば三十年。漢検のみなさんのさまざまな尽力があって年々書きやすいように環境が整い、漢字を介した清水寺のご縁も次第に広がってきたのですね。

やまざき・のぶお 一九六三年生まれ。二〇二一年六月から日本漢字能力検定協会代表理事、理事長。日本漢字学会評議員、京都市内博物館施設連絡協議会幹事。

— 企画が始まった頃、メディアや一般からの反応はいかがでしたか。

理事長 当初はメディアに案内しても取材申し込みがたいへん少なく、一般からの反応もまったくなかったですね。近年はおかげさまで新聞、テレビが二十社ほど取材に來られるようになりました。ネットメディアからの問い合わせも増えていますが、取材スペースに限りがあり、京都府教育記者クラブ加盟社に限っています。

初年度の応募は一万二千八百六十六通です。三十回は二十二万九百七十一通なので、初回の約十七倍に増えたこととなります。二〇〇八年は応募期間の十一月に米大統領選が投票され、「チェンジ」を掲げたオバマ氏が当選するなどして「変」が選ばれました。十四年目のこの年、初めて応募が十万通



右上から2000、2012、2016、2021年の「金」。左は2024年。五輪に加え「裏金」など負のイメージも連想させる＝写真は漢検提供

を越え、このあたりから大きな注目を集め始めたように思います。

貫主 そうですね、私も「今年の漢字のお坊さん」として認知されだしたことを実感したのは、一九九〇〜二〇〇四年あたりでしょうか。一九九九年は世紀末として「末」が選ばれ、十年目となった二〇〇四年は台風被害などが相次いで「災」を揮毫しました。

特に記憶に強く残る字は「戦」。米国での同時多発テロが起きた二〇〇一年です。「お寺の和尚が『戦う』などという漢字を書いてどうするんや、おかしいやないか」とかなり批判されました。そうやない、と説明したんですよ。「戦争をしよう」ということやないんです、「戦争をみんなでなくしていこう」と呼びかける漢字をみなさんが選んだんや、と。私に疑問をぶつけてきた方々には説明をして、みな納得していただけたと思います。

理事長 三十年やってきても、「漢字をどうやって選んでいるのですか」と聞かれますよ。

貫主 清水寺の和尚が選んでいる、と思っている人は多いそうですね(笑)。

印象深い字は「絆」ですね。二〇一一年三月十一日の東日本大震災の年に選ばれました。大災害を受けて字がみなさんの気持ちを反映し、意味が大きく広がったのです。亡くなった方、行方不明の方の合計が二万人を超える大災害となり、清水寺では震災の翌日から午前・午後と、開催中だった夜間拝観の際に慰霊法要を営みました。法要は百日間厳修し、

1995年は「震」。森清範貫主が揮毫した。「西の阪神・淡路大震災、東のオウム事件」と言われて日本列島が震えた年に「今年の漢字」は始まった＝写真は漢検提供



参詣の方に梵鐘を撞いていただく慰霊撞鐘を呼びかけました。

この年の五月、岩手県盛岡市の百貨店カワトクから被災地を励ます揮毫を——と求められ、最初は復興の「興」にしようと思ったのですが、「みんなと

つながる」の意味を込めて「絆」を選び、最初に岩手日報で報じられました。「今年の漢字」で用いるのと同じ大きさの同紙に同

じ筆で書き、半年ほど百貨店で展示された後、「絆」は十一月、カワトクから岩手県に寄贈されました。ちょうど二〇一一年の「今年の漢字」の応募期間ですね。「絆」の寄贈を伝える共同通信社の記事が全国に配信され、記事の反響が各地から私に寄せられたのです。「『絆』を選んで書いたのはよい選択や」「『今年の漢字』を、今回はいつもより早く書いたのか」などなど、好意的な声ばかりがたくさん伝わってきました。大震災の年の五月に揮毫したこの「絆」は、今も岩手県庁に飾られて多くの方の目に触れているそうです。

「絆」は、震災後のみなさんの心に響いたのでしょ、二〇一一年「今年の漢字」は「絆」への応募が最多となりました。それまで「絆」は、主に家族、親子の絆を意味する漢字とされていましたが、二〇一一年「今年の漢字」に選ばれて以降は「日本全体の絆」「日本と世界の絆」といった個人を越えた、たいへん大きな意味を示すようになったと思います。

二〇二三年十月八〜十二日に、国立京都国際会館（京都市左京区）で国連主催「インターネット・ガバナ

ンス・フォーラム（IGF）」が開かれました。「IGFはインターネットに関するあらゆる課題を、さまざまな関係者が対等な立場で対話する場」との説明を総務省から受け、「絆」と揮毫して短いスピーチをいたしました。あらためて「絆」は「ネットで世界とつながる現代社会にふさわしい良い漢字やなあ」と思います。フォーラム会場には六千人以上が来場し、オンラインを含めて九千人以上が参加されたそうですから、会場で揮毫した「絆」は、大きなインパクトになったと思います。でも常用漢字ではないんですね（笑）。

理事長 日本漢字能力検定では、一級相当の難しい漢字です（笑）。

ところで、五輪イヤーなどで「金」は五回、「災」「戦」「税」がそれぞれ二回選ばれており、そろそろ殿堂入りも検討する必要があるかもしれませんね。

貫主 漢検さんに「金メダル」授与ですね（笑）。過去に同じ漢字が選ばれている時は、辞書なども参考にして変化をもたせるなど工夫しています。

―二〇二五年は三十一回目となります。今後の展

望をお聞かせください。

理事長 世の中の多様化にどう対応していくかが課題です。一年あるいは半年などの応募間隔や、年齢別に十代、二十代などの感じ方の違いをどう反映させるか。集計方法も工夫し、選び方をさらにオープンにしていけたら、と考えています。みなさまのご意見を基に「進化する今年の漢字」を目指してまいります。

貫主 書家としての字を書いてきたものではありません。機械化されてスマホやパソコンで漢字が入力される今の時代だからこそ、もっともっと筆で字を書くことを愛好していただきたいと考えます。漢検



試行錯誤を重ね、現在の形となった揮毫用の筆。毎年、漢検から提供される。その年の漢字のイメージを膨らませた森貫主が、本番で初めてその筆をおろす

「今年の漢字」発案から関わる漢検の大野博史さん。和紙や筆の準備、当日のサポートまでを担ってきた



として集計し、仮に機械でその字を打ち出して発表しても味気なく、浸透しないかもしれないかもしれません。文字は、人が筆で表現することによって芸術性も生じます。「今年の漢字」が今後も催されていくことで、

「今年の漢字」1995年～現在

2025年	「金」
2024年	「税」
2023年	「戦」
2022年	「金」
2021年	「密」
2020年	「令」
2019年	「災」
2018年	「北」
2017年	「金」
2016年	「安」
2015年	「税」
2014年	「輪」
2013年	「金」
2012年	「絆」
2011年	「暑」
2010年	「新」
2009年	「変」
2008年	「偽」
2007年	「命」
2006年	「愛」
2005年	「災」
2004年	「虎」
2003年	「帰」
2002年	「戦」
2001年	「金」
2000年	「末」
1999年	「毒」
1998年	「倒」
1997年	「食」
1996年	「食」
1995年	「震」

書道の醍醐味を感じる方が増えて書道の発展につながっていけば、と希望しています。

事実、小学生の頃に「今年の漢字」で刺激を受けて漢字や書に興味を覚え、書道の先生になった女性がいらっしゃるんですよ。その方は二〇二四年の秋、清水寺で結婚式まで挙げられました。うれしかったですねえ。今後も、多くの人が書に関心を持つきっかけになってほしいですね。

漢字はカナの原点であり、楷書、行書や草書など、たくさん種類があります。漢字を普及することは、日本の文化を向上させていくことでもありますね。私は漢字を書くことが好きなんですよ。

理事長 日中韓やベトナムなど、漢字文化の歴史

2024年「今年の漢字」の「金」を供え、信者のみなさまが参列して奥の院で厳修された奉納法要（2024年12月12日）



のある東アジアですが、漢字を使わなくなった国もあります。韓国ではハングル書道もありますし、漢検では漢字とハングルの双方を併記して学べるテキストなども開発し、共通の文化遺産を通じて相互理解の一助となるよう努力してまいります。漢字が読

めれば古い文書も読めます。結果として、過去に学んで正しい歴史の理解につながれば、と希望します。
貫主 「今年の漢字」を、さらにすばらしい催しにしていきたいですね。
(終わり)

※ 対談の構成にあたり、岩手日報社と共同通信社には二〇一一年の事実関係確認でご協力いただきました。日本漢字能力検定協会からは一九九五年の第一回を含め、貴重な写真を提供いただきました。ご協力いただいたみなさまに厚く御礼申し上げます。



「今年の漢字」は毎年、揮毫の日から清水寺本堂で10日程度展示され、漢字ミュージアム（京都市東山区祇園町）に移される